

第3回「万葉集・明日香村」を中心とした授業づくりセミナー 概要報告

大西 浩明

- ◇日時 2022年10月29日(土) 10:00~12:00
◇場所 県立万葉文化館
◇参加者 【現職教員】村上(平城小)
【学生】川田(3回生)、東(2回生)、田中(1回生)、飯田(1回生)
【万葉文化館】阪口、竹内
【大学教員】加藤、及川、米田、大西 計11名

◇内容 単元構想案の検討①

中学校3年生国語科「古人の思いを想像し、自分の気づきを未来へつなげよう」

国語教育専修3回生 川田大登さん

(目標)

- ・歴史的背景などに注意して、万葉集を読むことを通して、その世界に親しむことができる。
- ・和歌を吟味したり検討したりしながら味わい、和歌に表れているものの見方や考え方について、自分の知識や経験などと照らし合わせて納得や共感できるか否かなどを考えることができる。
- ・進んで万葉集に触れつつ、学習計画に沿って歴史的背景や現代語訳を踏まえて紹介文を書こうとする。

(展開)

「アポロ」(ポルノグラフィティ)を聞き、

「この街がまだジャングルだったころから変わらない」愛の形を探そう。
万葉集の歌(できれば恋愛の歌)を数首取り上げて考えさせる。

→ どの歌がいいか?

さらに、恋の歌だけでなく他の和歌にも触れる。

「なぜ1300年を経ても残ってきているのか」

「今の日本語と同じ表記だろうか」

→ 万葉仮名に触れる時間はどこがいいか?

お気に入りの和歌を紹介する文章を書き、万葉集の受け継ぎ手になろう。

歌ごとにまとめて文集として一冊にまとめる。



【意見交流】

- ・紹介文を書くだけでは単なる解説になってしまう。実際に歌を作ってみたらどうだろうか。
万葉の歌を現代風に作詩させてみるのも面白いかも。
この学習のゴールは、解説できるようになることではなく、自分の万葉集をつくることにしては。
- ・導入の段階で、万葉仮名で書かれた原文を提示して読ませるといいのでは。
どんな時代でも読むための工夫がされていた。注釈書がいろんな時代にある。
なぜ受け継がれてきたのかを考える一つの材料。
- ・文字でしか表現されていない万葉集だが、当時は節をつけて歌っていたはず。
だから、万葉集は「歌集」であり、一つ一つは歌であることに気づいてほしい。

- ・1300年前のものでも、感情移入できて、共感できるから受け継がれてきたはず。

国語では、心情や情景を想像できるようにすることが大切。この学習でもそこを大事にしたい。

人間の人間らしい部分があるから共感できる。

国語でなければ伝えられないことがあるはずで、そこに国語とESDの接点があるように思う。

- ・歌と映像が一体化されると心に残っていく。その意味でも、最後に歌をつくるだけでなく、映像制作させることもよいのでは。生徒にその方法を選ばせてもいい。

- ・「やまなし」を映像化させて、インスタグラムにあげどれがいちばんバズるかという取組もある。なぜ、その作品が「映え」るのかを考える。

言語だけで表現させなくても、絵や写真で伝えるという方法もある。

- ・歌に表現された色や空気感を感じるところに、万葉集を味わうよさがあるはず。

PISA型学力で言われる「読解力」は、言語を読むだけでなく、絵やグラフ、映像などから読み取る総合的読解力である。

- ・1300年受け継がれてきた万葉集は、それだけで持続性があるということ。それはなぜなのかを考える学びこそ、この授業づくりセミナーで考えたい授業。

- ・文化の継承という観点で言えば、SDGsとの関連は11（まちづくり）も入ってくる。



※ 次回（第4回）は11月26日（土）10時～

単元構想案の検討②として、学生からの提案とする。

今年度は現職教員による実践はないので、第5回は学生2名の学習指導案の検討の場とする。